

顕彰状

ヘンリー・アルフレッド・キッシンジャー氏は、1923年5月27日ドイツ、フルト(Fuerth)に生まれた。ナチスの迫害を逃れて、一家と共に1938年アメリカ合衆国に移住し、1943年同国に帰化した。第二次世界大戦後ハーバード大学に進学し、学部時代にヨーロッパ外交史の研究を始めた。1950年に学部を「*summa cum laude* (最優秀成績での卒業)」の称号を受けて卒業し、1952年に修士号、1954年に博士号をハーバード大学から取得した。

卒業後はハーバード大学政治学部で教鞭をとり、同時に国際問題研究所(Center for International Affairs)の研究員も兼務した。氏はまた、ハーバード大学在任中より、米国政府関係の専門委員や民間の研究所の所長など多くの役職を歴任し、次第に現実のアメリカ外交に対して提言する立場となり、1969年にニクソン大統領より国家安全保障担当大統領補佐官に任命された。1973年9月より第56代国務長官に就任し、引き続き国家安全保障担当大統領補佐官も兼務した。その後、国務長官の責務に専心し、フォード大統領の下でその務めを果たした。

キッシンジャー氏は、国際政治学における現実主義の視点から1969年から1977年までのアメリカ外交政策の決定過程に大きな影響を与えた。第一に挙げるべき功績は、米中の国交回復である。当時、ニクソン政権は保守強硬派の外交路線を貫くと世界からは見られていたが、キッシンジャー氏は斬新な発想にもとづき、1971年にアメリカと国交のなかった中華人民共和国を二度にわたり極秘に訪れ、その後の米中の国交回復へ道筋をつけ、世界を驚かせた。同氏はまた、その外交戦略の大きな枠組みの中で、泥沼化したベトナム戦争の終結に向けパリ平和協定の調印を果たした。こうした功績に対して1973年ノーベル平和賞が贈られている。

キッシンジャー氏は「デタント」という平和追求戦略を模索し、米ソ間の緊張緩和の実現に貢献した。国務長官退任後も歴代の大統領に対し長期にわたってアメリカ外交の指南役を果たしてきた。また、同氏は日米の友好的な外交関係の発展に貢献し、特に沖縄返還をめぐる日米交渉では重要な役割を果たした。本学の大濱信泉第7代総長は沖縄問題等懇親会座長を務め、沖縄返還に尽力した。この点において、キッシンジャー氏と本学との関係は深いといえる。

キッシンジャー氏は、歴史と哲学への深い洞察に基づく学問的な視点を失うことなく、現実の世界政治に関わり続け、世界平和の実現に貢献し、その功績はアメリカ国内のみならず世界的にも高く評価されている。氏の「現世を忘れぬ」学者の姿勢は本学の建学の理念と同じくし、「学問の活用」を説く本学の三大教旨を氏の人生を通してまさに体現してきたといえる。ここに本学はキッシンジャー氏のこれまでの世界平和への貢献を讃え、同氏に名誉博士学位の称号を贈呈するものである。

ここに早稲田大学総長、理事、監事、評議員ならびに全学の教職員は一致して

ヘンリー・アルフレッド・キッシンジャー 氏に
名誉博士 (Doctor of Laws) の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(*Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!*)

2007年4月1日

早 稲 田 大 学